厚生労働省 令和６年度 老人保健健康増進等事業　成果物

地域共生の推進に向けた老人クラブとの協働を目指して

～活動振り返り・見直しのための手引き～

▸目 次

老人クラブを知る

- 老人クラブとの協働・連携のメリット …2
- 老人クラブの新規会員の減少による活動継続の課題 …3
- 老人クラブの今後の活動継続・再活性化に向けた、「見える化」の重要性 …3

老人クラブと対話する

- 情報収集から方針検討を「3つのステップ」で進めよう …4

老人クラブの意欲を高める

- 老人クラブにおける活動の「やりがい」 …10
- 老人クラブの「できていること」・「できていないこと」の意識 …10
- 老人クラブにおける活動意欲を高め、協働を推進するための働きかけ …11

令和７年３月

株式会社 浜銀総合研究所

はじめに

- 老人クラブは「老人福祉法」の第13条に「老人福祉の増進のための事業を行う者」として位置づけられ、各地域の高齢者の心身の健康の保持に資する活動を行う団体として規定されています。
- **地域の高齢者が集まり、生きがいづくりや防犯・防災への取組、あるいは清掃・緑化など様々な活動を行う互助組織であり、地域の高齢者の生活を支える重要な資源**と考えられます。
- しかし、その活動の継続・発展に向けては多くの課題を抱えており、**今後の活動の在り方については、老人クラブとその支援を行う地方自治体等が一緒に考え、課題への対応を進めていくことが重要**です。
- こうした背景から、令和６年度に厚生労働省の補助事業として実施した調査研究の結果に基づき、地方自治体（市区町村)を主な読者と想定し、今後の老人クラブとの協働について考えるためのアイデアをまとめたガイドブックを作成しました。本書の内容をご覧いただき、皆様の地域の発展に資する一助になれば幸いです。

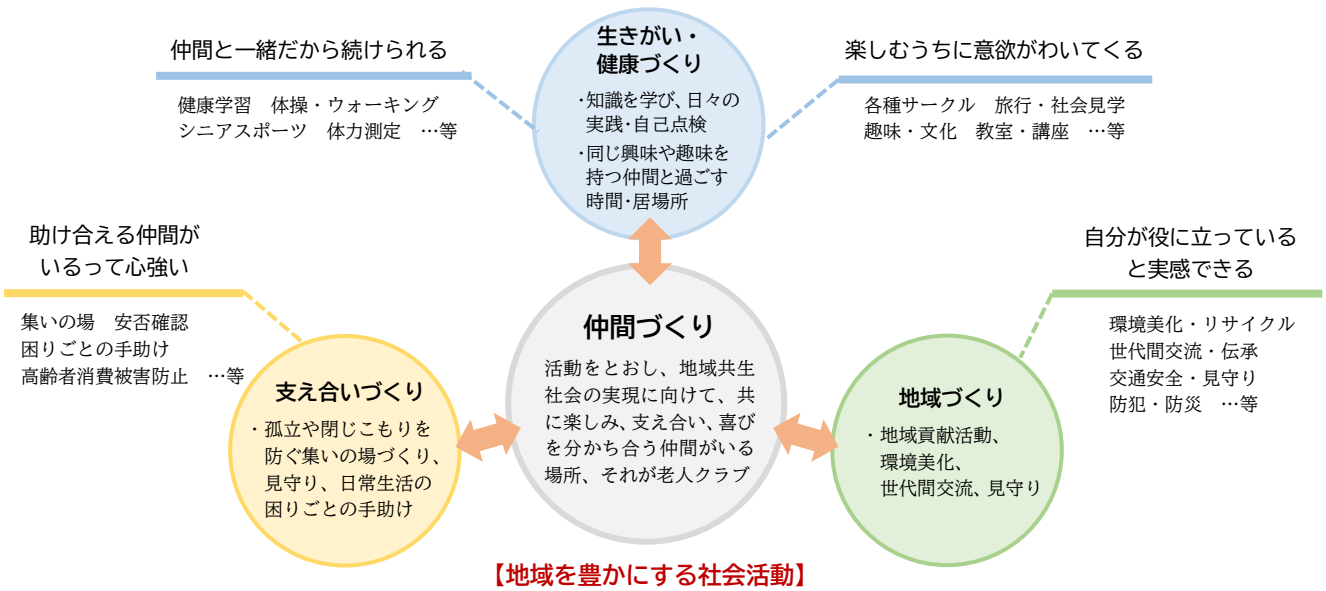
老人クラブを知る

老人クラブと地方自治体が連携することにより、老人クラブの活動継続・発展のみならず、地域福祉の推進も期待されます。そのために、まず、老人クラブの現状と必要な取組とは何かを整理しました。

老人クラブとの協働・連携のメリット

老人クラブはそれぞれの地域において様々な活動を展開しています。各クラブの会員の生きがい・健康づくりだけではなく、地域の高齢者の居場所づくり・孤立防止や、環境美化や防犯・防災、まちづくりなど多様な分野にも貢献しています。

老人クラブにおける、他分野にわたる活動のイメージ



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和５年度老人保健健康増進等事業　老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業　調査報告書」の内容をふまえ浜銀総合研究所が作成

老人クラブの活動は、行政だけではなかなか手が届かない、地域の細かなところにまで浸透しており、老人クラブ及びその会員は地域の高齢者の生活基盤を支える重要な担い手と考えられます。高齢者が住み慣れた地域でいつまでも生活できる環境を目指す「地域包括ケア」の取組においても、老人クラブの存在は非常に重要であり、彼らと連携し、それぞれの強みを活用することにより、高齢者福祉施策のより効果的な実施が期待されます。

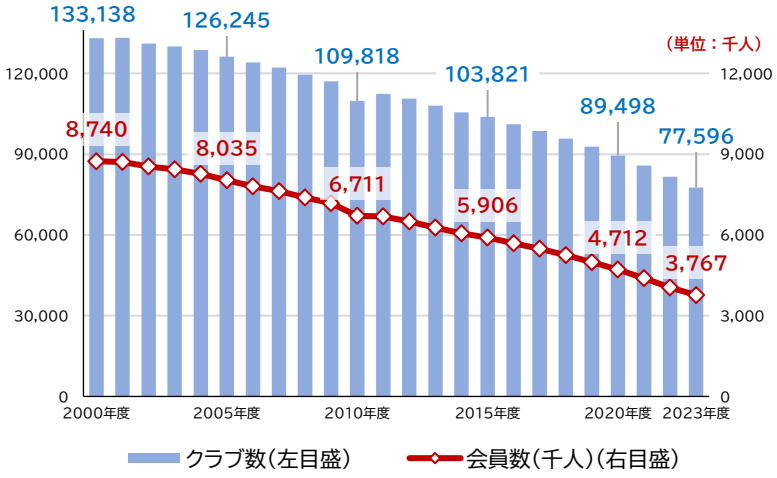
さらに、地域への情報発信・理解浸透において、地方自治体と老人クラブが連携を図ることで、より効果的に取組を進めることができると考えられます。

老人クラブの新規会員の減少による活動継続の課題

老人クラブは地域の高齢者の生活基盤を支える重要な資源ですが、その活動の継続には、様々な課題を抱えています。中でも、会員数の減少・高齢化が大きな問題となっています。

高齢者人口が増加する一方、全国の老人クラブの会員数・クラブ数はいずれも減少が続いています。背景として、新規の入会者が減少していることが挙げられます。若い世代の加入が進まないことから会員の高齢化が進行し、各活動への参加者の減少、老人クラブの運営を担う人材の後継者不足等、従来の活動を続けていくことについて様々な場面で問題が生じています。

全国の老人クラブ数・会員数の推移

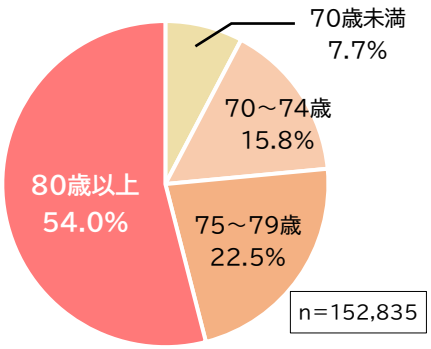


出典：厚生労働省「福祉行政報告例」

会員数の減少・高齢化により生じていること

- ✓ **活動参加者の減少**
  …老人クラブに所属していても、活動には参加できないという人も増加
- ✓ **活動の縮小、マンネリ化**
  …体力的な問題、参加者の不足等により従来の活動ができなくなる
- ✓ **クラブ運営の担い手の不足、後継者の不在**
- ✓ **活動の場と交通手段の確保の問題**
  …特に公共交通手段の少ないところで顕著

老人クラブ会員数の年齢構成（全国平均）



出典：全国老人クラブ連合会「令和５年度老人クラブ実態調査」

活動休止・クラブ解散に至るケースも増加しています。その結果、高齢者の居場所がなくなり、地域での孤立や心身の健康状態の悪化も懸念されます。

老人クラブの今後の活動継続・再活性化に向けた、「見える化」の重要性

老人クラブの活動継続には様々な課題があり、その根源として**「新規加入者の減少」**が大きな問題となっています。定年の引き上げや雇用延長の普及により、60代でも仕事を持っている人が増えていること、以前と比べると老人クラブ以外の活動の場が充実していること、また地域住民同士のつながりの希薄化など、比較的若い世代の高齢者が老人クラブに加入しないことには様々な要因が影響していると考えられます。

新規会員を増やすためには、そもそも**老人クラブとの接点がない、活動の内容ややりがい等が伝わっていない（その結果、自分とは関係のないものだと思われてしまう）**といった状況の改善が必要です。老人クラブがどのような活動を行っているのか、その活動には地域社会にとってどのような意義があるのかということについて世の中に情報を発信し、理解促進を図っていくことが重要です。

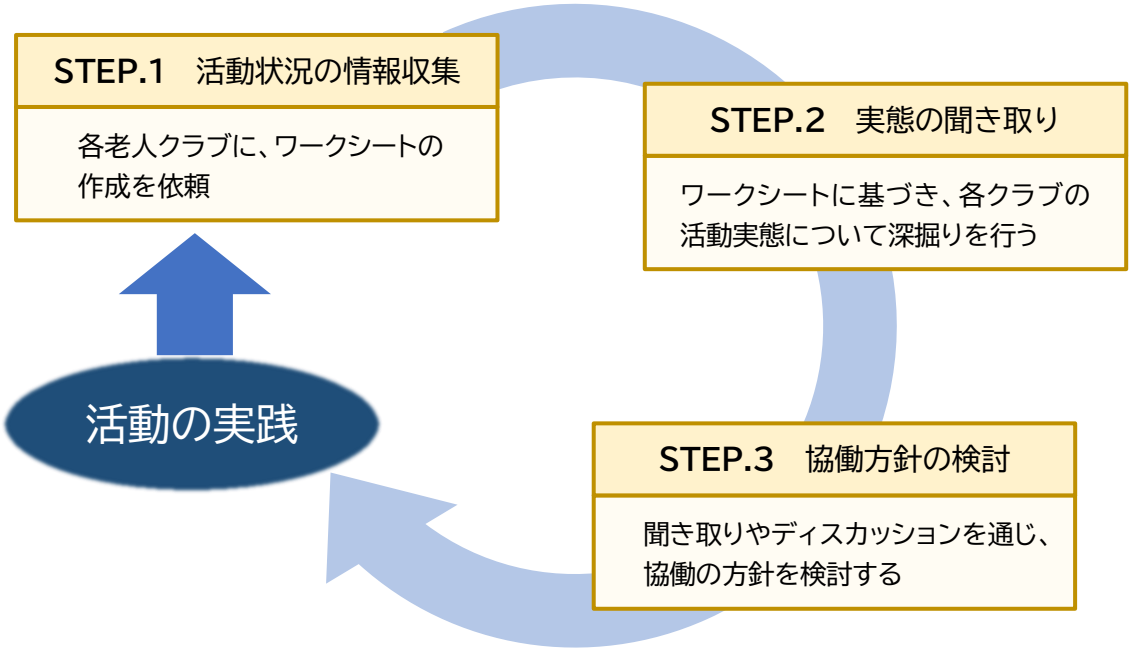
そこでポイントとなるのが、老人クラブの理解促進・活性化に向けて、老人クラブの活動を「見える化」することです。「見える化」により、行政のみならず**老人クラブ自身が自分たちの取組の意義を再発見することにつながり、会員の方々の自信や意欲を高めていく**ことも期待されます。

老人クラブと対話する

老人クラブの活動の「見える化」を進めていくにあたり、本書では、老人クラブの活動の情報収集から、振り返り・方針の検討などに活用可能な「活動振り返りワークシート」を作成しました。

情報収集から方針検討を「３つのステップ」で進めよう

老人クラブの活動実態に関する情報収集から協働方針の検討を効果的に進めるための手法として、以下の３つのステップで作業を進めることを提案します。

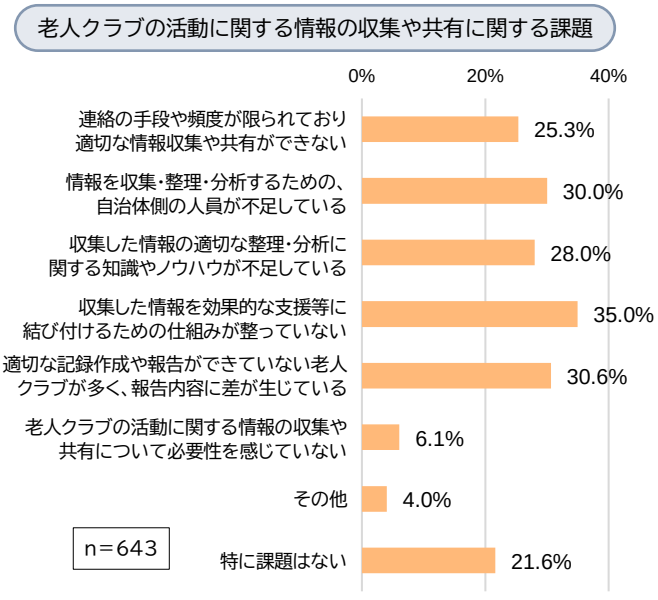


STEP.1 活動状況の情報収集　STEP.2 実態の聞き取り　STEP.3 協働方針の検討

「活動振り返りワークシート」を使って情報収集を

老人クラブの活動継続に向けた支援を行っていくためには、まずその実態について知る必要があります。令和６年度の調査研究事業において、老人クラブの主な支援者である地方自治体においては、「老人クラブとの日ごろの接点が少ない」、「行政側の担当者の人員体制の問題等により、個々の単位老人クラブの活動については十分に情報が把握できていない」といった課題が挙げられています。老人クラブの活動継続・発展に向けた支援の「はじめの一歩」として、まずは各地域における老人クラブの活動状況や、考えなどを把握するところから始めてみましょう。

地域の老人クラブの活動実態に関する情報収集に活用するツールとして、「活動振り返りワークシート」を作成しました。その内容や使用方法等についてご紹介します。



出典：本調査研究事業にて実施したアンケート調査（対象：全国の市区町村）

「活動振り返りワークシート」のねらい

- ☑ 地域で活動する老人クラブ(単位老人クラブ)の活動内容を把握する手段として活用する
- ☑ 老人クラブの活動に対する達成感や、地域の環境向上への貢献度を振り返り、活動状況や今後の活動に対する考えの具体化や、自分たちの活動の社会的意義に気づくきっかけとする
- ☑ 老人クラブの活動継続における課題や、今後取り組みたいと思うことについての、関係者の情報共有手段として活用する

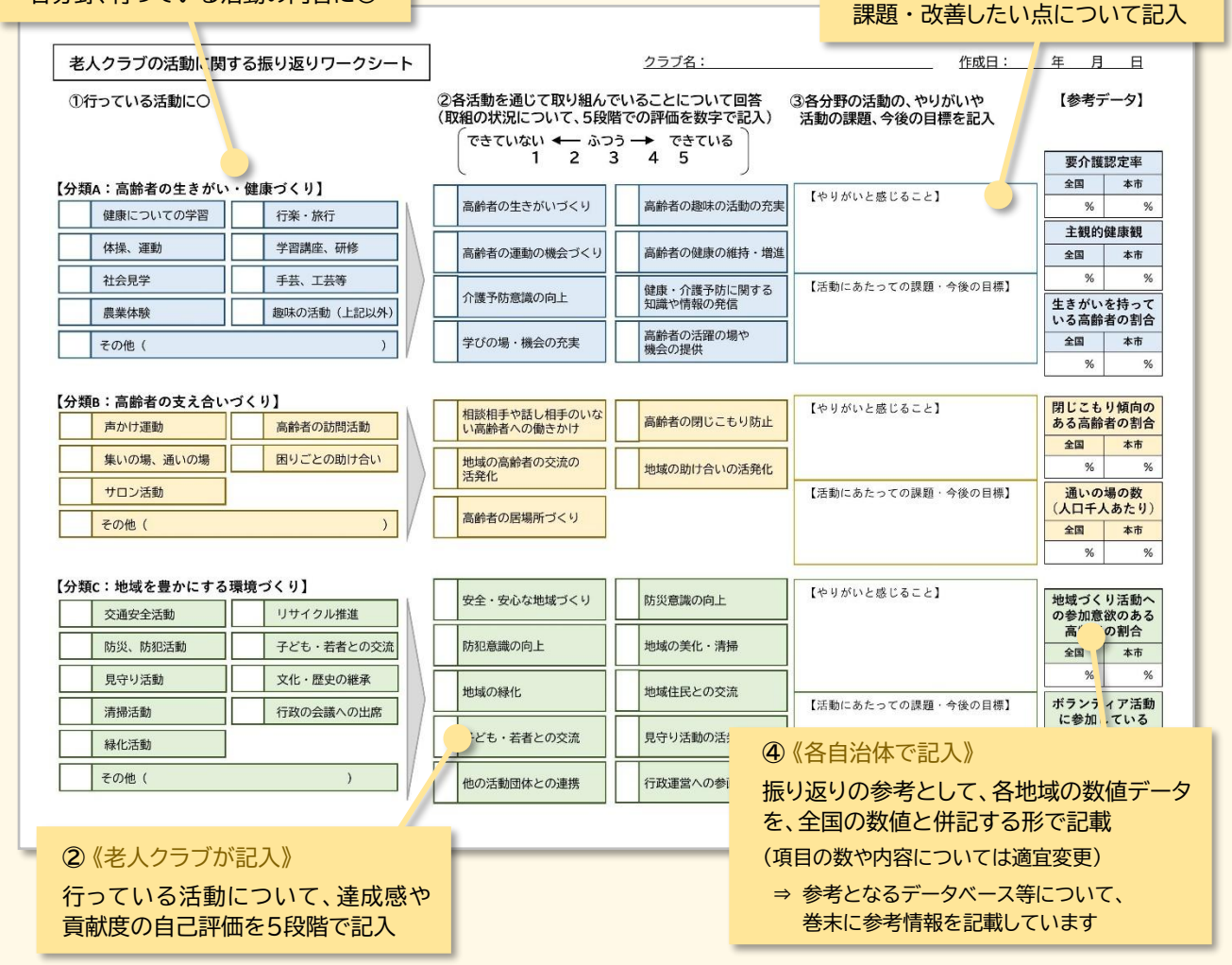
活動内容や振り返り項目、参考データについては、より実用的なものとなるよう、
各自治体の状況やお考えに基づいて内容の検討・調整を行ってください。

※本調査研究事業の成果物を掲載したWebページに、書き換え可能な形式のワークシートを掲載しておりますので、こちらもご活用ください。

「活動振り返りワークシート」の構成

①《老人クラブが記入》
各分野、行っている活動の内容に○

③《老人クラブが記入》
やりがいと感じていること、今後の課題・改善したい点について記入



②《老人クラブが記入》
行っている活動について、達成感や貢献度の自己評価を5段階で記入

④《各自治体で記入》
振り返りの参考として、各地域の数値データを、全国の数値と併記する形で記載
（項目の数や内容については適宜変更）
⇒ 参考となるデータベース等について、巻末に参考情報を記載しています

※「活動振り返りワークシート」の見本は、６～７ページに記載しています。

老人クラブの活動に関する振り返りワークシート

①行っている活動に○

②各活動を通じて取り組んで
（取組の状況について、
できていない ← 1　2）

【分類A：高齢者の生きがい・健康づくり】

	健康についての学習		行楽・旅行
	体操、運動		学習講座、研修
	社会見学		手芸、工芸等
	農業体験		趣味の活動（上記以外）
	その他（　　）		

	高齢者の生きがいづくり
	高齢者の運動の機会づくり
	介護予防意識の向上
	学びの場・機会の充実

【分類B：高齢者の支え合いづくり】

	声かけ運動		高齢者の訪問活動
	集いの場、通いの場		困りごとの助け合い
	サロン活動		
	その他（　　）		

	相談相手や話し相手のいない高齢者への働きかけ
	地域の高齢者の交流の活発化
	高齢者の居場所づくり

【分類C：地域を豊かにする環境づくり】

	交通安全活動		リサイクル推進
	防災、防犯活動		子ども・若者との交流
	見守り活動		文化・歴史の継承
	清掃活動		行政の会議への出席
	緑化活動		
	その他（　　）		

	安全・安心な地域づくり
	防犯意識の向上
	地域の緑化
	子ども・若者との交流
	他の活動団体との連携

クラブ名：　　作成日：　　年　　月　　日

いることについて回答
５段階での評価を数字で記入）

ふつう ⟶ できている
3　4　5

③各分野の活動の、やりがいや活動の課題、今後の目標を記入

【参考データ】

	高齢者の趣味の活動の充実
	高齢者の健康の維持・増進
	健康・介護予防に関する知識や情報の発信
	高齢者の活躍の場や機会の提供

【やりがいと感じること】

【活動にあたっての課題・今後の目標】

要介護認定率	
全国	本市
%	%

主観的健康観	
全国	本市
%	%

生きがいを持っている高齢者の割合	
全国	本市
%	%

	高齢者の閉じこもり防止
	地域の助け合いの活発化

【やりがいと感じること】

【活動にあたっての課題・今後の目標】

閉じこもり傾向のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%

通いの場の数（人口千人あたり）	
全国	本市
%	%

	防災意識の向上
	地域の美化・清掃
	地域住民との交流
	見守り活動の活発化
	行政運営への参画

【やりがいと感じること】

【活動にあたっての課題・今後の目標】

地域づくり活動への参加意欲のある高齢者の割合	
全国	本市
%	%

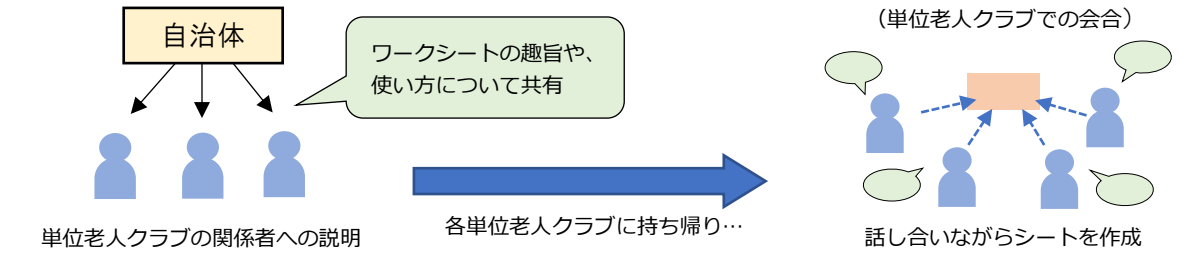
ボランティア活動に参加している高齢者の割合	
全国	本市
%	%

会員同士が集まって議論するきっかけづくりにも活用

「活動振り返りワークシート」は、主に単位老人クラブの関係者が活動内容やその成果を振り返り、状況を整理してもらうことを想定したものです。しかし、これを各クラブに配布して、記入を依頼するだけでは、ワークシートの趣旨が理解されない状態での回答となってしまう等、ワークシートの効果が発揮されない可能性があります。そこで、老人クラブにおける地域の総会や各クラブでの定例会などの関係者が集まる場を活用し、「話し合いながら書き込む」というスタイルを提案します。

代表者など一部の関係者だけの考えで記入するのではなく、**会員同士や地域の代表者同士で集まり、これまでの活動を振り返り、今後の活動を考えるという機会づくりとして活用**してもらえれば、ワークシートを通じた情報収集に加え、老人クラブが自分たちの活動の意義を見つめ直し、活動意欲を喚起する効果も期待されます。

ワークシートの使用方法・使用場面のイメージ



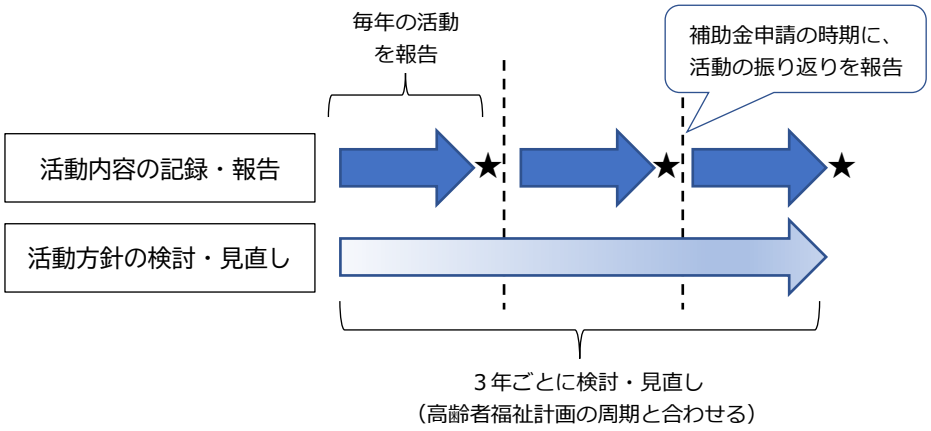
※こうした取組の実施については、市区町村等の老人クラブ連合会との連携も含め、円滑な進め方を考えてみましょう。

補助金申請や行政計画策定等の既存の取組にプラスオン

老人クラブにおける活動の記録・報告を頻繁に行うことは老人クラブ、行政ともに負担が大きいです。各年１回程度、例えば補助金申請のタイミングで行うといった既存のやり取りに組み合わせての実施を提案します。

また、各自治体において３年ごとに高齢者福祉計画・介護保険事業計画の策定を行うこととなっておりますが、こちらの計画策定を行う際、各自治体の高齢者福祉政策の中での老人クラブの位置づけについて改めて確認・検討を行っていくことが望ましいでしょう。ワークシートの共有を通じて得られた毎年の情報に基づき、**３年に一度の計画策定と合わせて、老人クラブの今後の活動についても検討・見直し**を行ってみてはいかがでしょうか。

ワークシートを用いた情報収集・活動方針検討の頻度



ワークシートを情報源に聞き取りにつなげる

ワークシートに記載された内容を見ると、「具体的な活動内容はどのようなものなのだろうか？」、「どのような考えをもって書かれたのだろうか？」という、もっと深く知りたいという気持ちが湧くのではないでしょうか。

そこで、各老人クラブが提出したワークシートを手元に、そのクラブ関係者にお話を聞いてみましょう。内容の深掘りができるだけでなく、顔の見える関係となり今後の連携がとりやすくなるなど、コミュニケーションのきっかけとしても大きな効果が期待されます。その際、**老人クラブの話を聞くだけでなく、自分たちが老人クラブに期待していることなど、行政側の考えも伝えること**が、お互いの理解促進につながります。

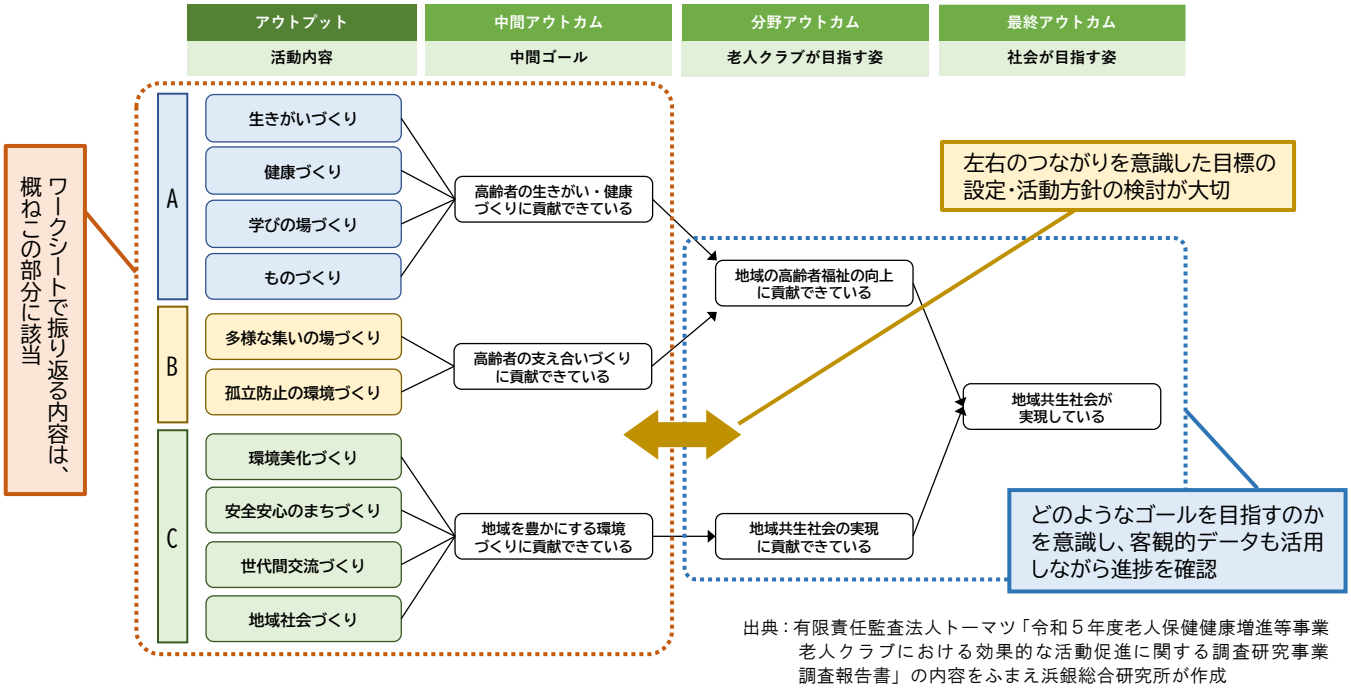
ただし、各地域に存在する老人クラブの数に対し、地方自治体の老人クラブ関連事業の担当者は少なく、すべてのクラブに話を聞いて回ることは困難であると思われます。そのため、対応可能な件数を抽出し、ある程度の期間を設けて取り組んで行くことがポイントです。

また、**取組が順調に進んでいるクラブだけではなく、活動上の課題を抱えているクラブへの聞き取りにも**つなげ、対応策を一緒に考えることも、重要なコミュニケーションの一つです。

老人クラブの活動と地域課題を組み合わせる

老人クラブの活動方針や活動内容は、基本的には各老人クラブが自主的に考え、行動することが前提となっていますが、行政側の考えをクラブ側に伝え、**各自治体の目指す地域福祉の将来像を共有し、そこに向けて老人クラブの活動の方向性を両者で一緒に考え、協働を通じた取組を進める**ことで、活動の社会的意義を高め、参加する高齢者の意欲や満足感を高めることにつながります。このように、老人クラブの活動を**「今後、どのようなまちをつくっていきたいか」という全体デザインの中に位置づけるという発想のもとで考えていく**ことが重要です。

老人クラブでの活動によって生じる地域の状況変化（定性的・定量的な変化）との結びつきを考えながら、老人クラブの今後の活動の方向性を一緒に考えてみましょう。ワークシートを通じて把握された情報に加え、数値データなどに基づく確認・検討を行うことで、高齢者福祉計画に位置づけるときのヒントとして活用できます。



出典：有限責任監査法人トーマツ「令和５年度老人保健健康増進等事業 老人クラブにおける効果的な活動促進に関する調査研究事業 調査報告書」の内容をふまえ浜銀総合研究所が作成

老人クラブの意欲を高める

活動の目標設定を工夫することで、より老人クラブの活動意欲を高めていくことにつながります。ここでは、本調査研究事業のアンケート調査・ヒアリング調査から見えてきた要点を紹介します。

老人クラブにおける活動の「やりがい」

老人クラブの活動においては、参加者が活動を楽しめていることのほか、充実感や達成感が得られることなど、様々なやりがいがあることが、アンケート調査結果から把握されています。回答内容を集約すると、老人クラブの活動における主な「やりがい」には、以下のようなものがあることが分かりました。

活動の「やりがい」につながるポイント

活動が楽しめていること
- ✓ 参加者にとって楽しい活動であることが重要
- ✓ 運営側も、参加者の笑顔が励みになる

仲間ができること
- ✓ 一緒に楽しむ仲間・連帯感がやりがいを増幅

充実感や達成感が得られること
- ✓ やり遂げること、目標に向かって努力することも、活動意欲を高める要因になる

地域や社会の役に立つこと
- ✓ 地域の人々の役に立ちたいという意識は強い
- ✓ なお、感謝されることで、それがさらに高まる

特に、「やり遂げたという充実感や達成感」は活動の継続・発展に向けて非常に重要な要素であると考えられます。その源泉としては目標の達成や、地域の役に立っている実感といった、活動の内容だけでなく、活動の結果得られるものが含まれており、こういった要素にも意識を向けることが重要です。老人クラブの活動方針や目標の検討においては、こういったポイントも参考になるのではないでしょうか。

老人クラブの「できていること」・「できていないこと」の意識

老人クラブの活動の意義については、大別して「生きがいづくり・健康づくり」、「高齢者の支え合いづくり」、「地域を豊かにする環境づくり」の３つの分野に集約することができます。

地域の状況変化に対する、老人クラブの貢献意識に関する回答結果の概観

【分類Ａ】生きがいづくり･健康づくり
- ・関連する活動を行うクラブが多く、参加者への効果・貢献を実感
- ・貢献度の評価についても高く、自信をもって取り組んでいる分野

【分類Ｂ】高齢者の支え合いづくり
- ・会員に対する孤立予防には、効果・貢献度ともに一定の評価
- ・会員でない高齢者への働きかけについて、課題と認識されている

【分類Ｃ】地域を豊かにする環境づくり
- ・地域の緑化や美化活動には積極的な姿勢、成果にも自信あり
  ⇒ただし、高齢者以外の世代への働きかけについては課題と認識
- ・地域社会に役立つこと・地域との関係強化への意欲が感じられる

※総じて、目的の明確な活動を行っている部分については効果・貢献意識が高い。

※客観的な数値等の変化（人数の増減など）のように、老人クラブ側で把握が難しいことについては、活動の効果・貢献意識ともに自信のない回答が目立つ。

これら３つの分野において、社会の状況が好転していると感じるか、またそのことに老人クラブの活動が貢献できているかという意識についてアンケート調査を行ったところ、多くの老人クラブにおいて「自信をもって取り組むことができており、貢献も実感している」ことがうかがえる一方、「あまり貢献できていない」と感じている老人クラブがあることも分かりました。

自由記述式の回答結果と合わせて見ると、老人クラブの会員、あるいは地域の環境づくりに対しては活動を通じて様々な効果や貢献ができているとの自信がうかがえるのに対し、老人クラブ以外の高齢者や、高齢者以外の世代に対しては活動を通じた効果・貢献の実感が低くなっている様子が見られます。これは「まだできることがある」という意識の表れと見ることもでき、今後の活動の発展においては、現状でアプローチできていない取組と結び付けられるような支援が有効ではないかと思われます。

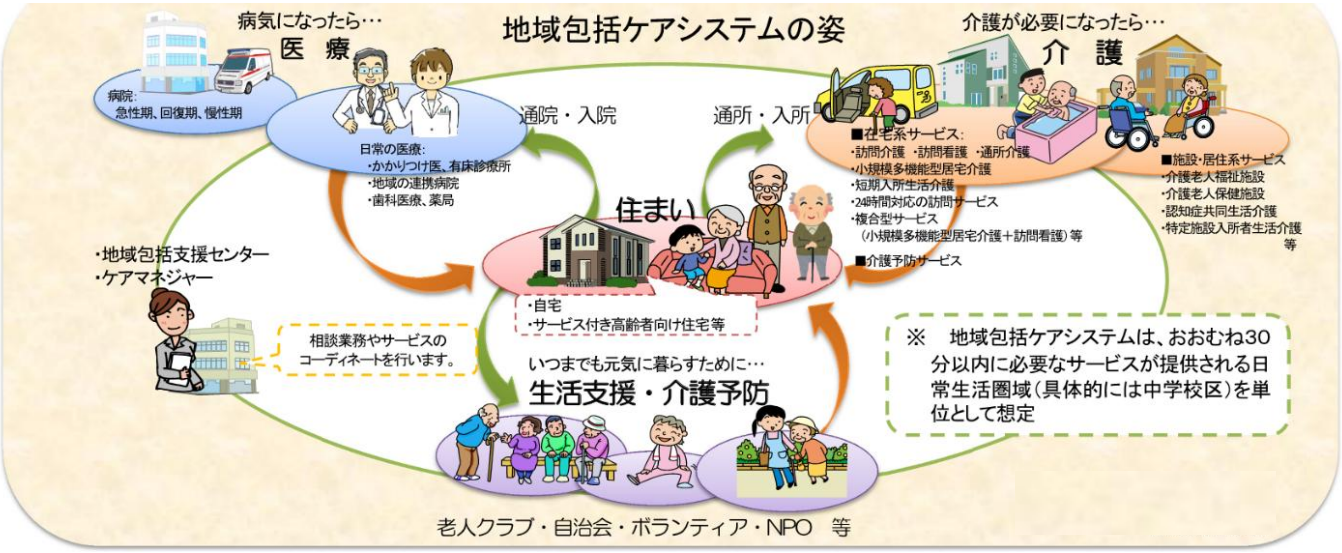
老人クラブにおける活動意欲を高め、協働を推進するための働きかけ

老人クラブの様々な活動は社会貢献につながるものですが、活動を意欲的に、かつ無理なく続けていくためには、**「自分たちが楽しみながら、結果的に社会のためになることをやろう」という姿勢であること**が望ましいでしょう。老人クラブの活動のやりがいには、「地域や社会の役に立つこと」も含まれていることから、老人クラブ自身が楽しみとして行っている活動が、地域の環境改善に貢献していることへの気づきを促すことにより、活動意欲を高め、活動範囲の拡大や貢献度の向上といった前向きな発展につながる効果が期待されます。

なお、老人クラブは地域の中で他の世代・団体等とも接点・交流を持ちながら活動する団体です。国が推進している「地域包括ケアシステム」の中でも、老人クラブは「生活支援・介護予防」を担う主体として位置づけられています。会員数の減少や高齢化等により、老人クラブ単体では活動の継続が難しくなっているという事例も把握されている中、今後も地域の生活基盤を支える担い手としての役割を維持するためには、外部との連携・協働を進めていくことも重要であると考えられます。

行政として、老人クラブの活動状況を把握し、活動方針を一緒に考える際には、彼らの活動について**地域社会への貢献を感謝するとともに、その効果を地域に発信し、地域の様々な世代・団体等と「一緒に取り組む」という考えの普及・浸透に取り組んで行くことが必要**なのではないかと思われます。

地域包括ケアシステムにおける老人クラブの位置づけ



出典：厚生労働省

◆参考情報◆

ワークシートに記入する参考データについては、以下のデータベース等を参考にご検討ください。

- **地域包括ケア「見える化」システム（https://mieruka.mhlw.go.jp/）**
  - ➡ こちらに記載の統計数値や、「介護予防・日常生活圏域ニーズ調査」の結果については全国と各市区町村の比較が可能
- **医療経済研究機構　保険者シート　分析ツール①（https://hokenja-sheet.jp/utilize/）**
  - ➡ 「分析ツール指標リスト」から指標を選び、「分析ツール①」から全国と各自治体の値を得ることが可能
- **介護保険事業報告　月報（https://www.mhlw.go.jp/topics/0103/tp0329-1.html）**
  - ➡ 介護保険事業の状況について、最新の情報が記載されている
- **統計で見る市町村のすがた（https://www.stat.go.jp/data/s-sugata/index.html）**
  - ➡ 各自治体の人口や世帯、経済等の様々な情報がまとめられており、上記の資料以外の項目について、全国や他の自治体との比較を行いたい場合に活用が可能

本事業の調査報告書については以下をご参照ください。（書き換え可能なワークシートも掲載されています。）

https://www.yokohama-ri.co.jp/html/investigation/jutaku.html

厚生労働省　令和６年度　老人保健健康増進等事業

高齢者の社会参加及び地域貢献に資する互助組織の推進に関する調査研究事業

有識者研究委員会（敬称略、順不同　令和７年３月末時点）

藤原　佳典	東京都健康長寿医療センター研究所 社会科学系副所長
関　ふ佐子	神奈川大学法学部 教授
埴岡　健一	国際医療福祉大学大学院　教授
正立　斉	全国老人クラブ連合会 理事・事務局長
大薮　定信	千葉県老人クラブ連合会 常務理事・事務局長
川鍋　愛美	松戸市 福祉長寿部　高齢者支援課 課長
大塚　宏未	長浜市 健康福祉部　長寿推進課 課長

オブザーバー

厚生労働省 老健局 認知症施策・地域介護推進課

事務局

株式会社浜銀総合研究所 地域戦略研究部

厚生労働省 令和６年度老人保健健康増進等事業　成果物

地域共生の推進に向けた老人クラブとの協働を目指して

～活動振り返り・見直しのための手引き～

作成年月：令和７年３月　　作成：株式会社浜銀総合研究所